

“バス通学の運動不足を徒歩区間の設置で解決する掛合小学校の好事例に学ぶ”

小学生の毎日の徒歩通学は、大事な運動の機会です。しかし、都市にくらべ地方（へき地）ではバス通学の増加により徒歩などのアクティブな通学者の割合が少ない状況にあります。もし今後も学校の統廃合が進むことで、学校から離れたところに住む子どもがバス通学になれば、1つの運動の機会を失う可能性があります。

そういった中、島根県にある雲南市立掛合小学校では、平成 21 年度からスクールバスの停車位置を小学校から約 500m 離れた場所にして、そこから徒歩で集団登校（右図：徒歩区間設置またはリモートドロップオフ）をして、運動不足解消をねらっています。そこで、安部孝文講師（地域包括ケア教育研究センター）らの研究チームは、その取り組みが全国の学校の好事例になると考え、当時、取り組みが行われた経緯やなぜ実施することができたのかをインタビュー調査で調べました。



掛合小学校で徒歩区間が設置された経緯（抜粋）

統合前 （平成 20 年度より前）	統合後の学校生活の議論が活発化 ✧ 5 校のうち 4 校がスクールバス通学になり保護者から体力低下の心配から徒歩区間設置の要望が提出された
統合後 （平成 20 年 4 月以降）	小学校 5 校が統合して新しい掛合小学校として開校 ✧ この時点では、登校のスクールバスは小学校体育館前まで送迎 ✧ 統合後の児童の様子について、保護者や先生から声があがる：体力が下がっている、1 時間目に覚醒していない
平成 21 年 9 月	掛合町 4 校連携 PTA・保護者会講演会「運動と食のクリニック」において研究員（身体教育医学研究所 うんなん）により「徒歩区間設置」の提案が行われた
同年 11 月	掛合町 4 校連携事業「掛合運動プロジェクト」の会議で、登校時にスクールバスが学校から 500m 離れた場所に停車して、そこから歩く「徒歩区間」が設置されることが報告された

掛合小学校で徒歩区間設置が実施できたポイント（抜粋）

1. 保護者や学校の関心の高さと円滑なコミュニケーション ✧ 学校の統合をきっかけに、バス通学になる子どもが増え体力低下が心配（保護者） ✧ 学校前でバスを乗り降りすると、地域住民と挨拶などの触れあいが少ない、集団登校による上級生の役割を失う、1 時間目に覚醒していないなど教育的課題の認識（学校） ✧ PTA（会長）と学校長の円滑なコミュニケーションが迅速な意思決定に貢献
2. 身体活動研究の専門家（研究者）によるアイデア例の提供 ✧ 保護者からも要望があったが、徒歩区間の設置を促進するきっかけに
3. 停車位置変更に伴う対応

- ◇ 学校の新たな予算は不要（ただし、後日、通学路を示すのぼりや横断歩道を地域の協力で設置）
 - ◇ 学校の生活時程は徒歩区間を考慮したものに変更
 - ◇ バスを停車できる場所の確保
 - ◇ 徒歩区間の安全性の確保（警察、交通指導員、教員の見守りや歩道橋の存在）
 - ◇ 災害時は、校長判断で学校前へ停車（バス会社へ連絡）
4. スクールバスの路線の調整
- ◇ 掛合小学校では、教育支援コーディネーター（教育委員会付け職員）が実施

島根大学、身体教育医学研究所うんなん、東京大学、山梨県立大学、千葉大学の共同研究チームは、**新年度や学校の統廃合などでスクールバス路線を見直す際に、安全に子どもの運動量を確保するためにスクールバスに徒歩区間の設置を検討して欲しいと考え、その際の基礎資料とするための事例をまとめました（3 ページ目に概要をマンガで掲載）。**

詳細は、学術誌「体育学研究」に掲載されています（2025 年 4 月 10 日受理、2025 年 4 月 15 日付けで、オンライン上で早期公開）。

また、本研究は、**JSPS 科研費 23H00201（安全と身体活動を両立する Active School Travel の探究と都市計画・デザイン手法の確立）**の助成を受けて行われたものです。

■ 論文タイトル：小学校におけるスクールバスの徒歩区間設定の実装過程と促進・阻害要因：実装研究のための統合フレームワーク（CFIR）に基づく質的研究

■ 掲載誌：体育学研究

■ 論文 URL: <https://doi.org/10.5432/jjpehss.022-24099>

■ 著者（所属・職名）

安部孝文（島根大学研究・学術情報本部地域包括ケア教育研究センター・講師）

鎌田真光（東京大学大学院医学系研究科公共健康医学専攻健康教育・社会学分野・准教授）

北湯口純（身体教育医学研究所うんなん・副所長）

山北満哉（山梨県立大学 看護学部・准教授）

花里真道（千葉大学予防医学センター・准教授）

樋野公宏（東京大学 大学院工学系研究科 都市工学専攻・准教授）

【研究に関する問合せ先】

島根大学研究・学術情報本部地域包括ケア教育研究センター

講師 安部 孝文

電話：0853-20-2586



研究概要の紹介マンガ



停車位置変更に伴う対応

- 新たな予算は不要
(後日のぼりや横断歩道の設置)
- 徒歩区間を考慮した時程
- バス停車場所の確保
- 徒歩区間の安全性の確保
- 災害時の対応



身体活動の研究者によるアイデア提供

- 徒歩区間設置の後押しに



PTAの関心の高さと円滑なコミュニケーション

- 子ども達の体力低下を心配する保護者
- 学校側は地域住民との交流や集団登校における上級生の役割の喪失、1限目に覚醒していないなど教育的課題を認識
- PTA(会長)と学校長の円滑なコミュニケーション



スクールバスの路線の調整

- 掛合小学校では、教育支援コーディネーターがバス路線の計画調整を実施



掛合小学校で
徒歩区間設置が
実施できたポイント